

令和 6 年度
運営に関する計画

大阪市立本田小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の児童は素直で、概ね良好な人間関係を築けている。これまで全校児童に「自分を大切にする、周りの友達も大切にする」ということを意識づけ、人間関係調整力を学年応じて指導してきた。異学年の関わりも大切にしており、高学年児童が低学年児童にやさしく寄り添う姿も多く見られる。

学校のきまりについては、互いに安全に安心して生活していくために必要なものであることを理解し、きまりを守って生活しようと思う児童が大半を占めている。児童数が増加している中で、児童が安全に生活するためには、環境整備はもちろん児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てることが重要である。

学習においては、この数年、コンテンツ（知識・技能の習得）ベースの学習から、コンピテンシー（資質・能力の育成）ベースの学習へと変換を図ってきた。児童が問い合わせたて、問題を解決していく学習が各教科で展開されている。

体力・運動能力に関しては、運動をすることの楽しさを感じている児童は多いものの、全市的に見て、体力・運動能力は低い傾向が見られる。運動をする機会の確保と、運動を楽しいと感じる子どもが増える体育科の授業づくりが必要である。

健康的な生活をするために必要な「朝食をとる」「同じ時刻に寝る・起きる」については、保健教育、食育、家庭への啓蒙の3つの側面からアプローチを続けていく。

近年のグローバル化した社会での保護者の勤労状況は多様化し、それぞれの家庭の経済格差や教育力の格差、文化親和度の格差の広がりを生み出している。また、グローバリズムは、さまざまな国から転校してくる児童の増加という現象を生み出し、日本語教育のニーズも高まっている。公教育の基礎になる小学校であるからこそ、教職員はこれらの格差を乗り越え、等しく教育を受ける機会が与えられ、社会に積極的に参加するチャンスを一人一人の児童に提供しようという決意をもって、学校教育に携わっている。

このような子どもの実態や社会情勢、第3期大阪市教育振興基本計画の3つの最重要目標を踏まえ、「健康でなかよくする子、よく学ぶ子」を学校教育目標に設定している。また、学校教育目標達成のため、「子ども・教職員・保護者・地域 みんなで学校をつくる本田小学校」をめざす学校像とし、めざす子ども像、めざす教職員像を、「自分と周りの人を大切にし、本田小学校のみんなが幸せな学校生活を送れるように自ら目標を設定し、責任をもって行動できる子ども」「子どもの成長を願い、将来、社会の一員として自分なりの道を切り拓けるために学び続け、協働して学校運営に参画できる教職員」と設定している。

さて、本校教育の課題は大きく2つである。一つは自分と周りの人を大切にし、自他の命を守る力の育成。もう一つは常に変化し不確実で曖昧な時代に、柔軟に対応できる児童の育成である。前者については、多様性を尊重し、児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てていきたい。自他を大切にするための具体的な取り組みについては、中期目標、年度目標で設定し、毎年見直しを図っていく。後者については、すべての学習の基盤となる資質・能力を育成するための授業実践や教員の研鑽に努めるとともに、芸術・スポーツ・文化・伝統など本物に触れて学ぶ機会を設定し、児童の身体的文化資本を育てていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ★ 令和6・7年度の小学校学力経年調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合 95%以上を維持する。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。
- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査において「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。(低学年は校内調査を活用)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、対全国比が1を上回っている学年は維持し、下回っている学年は前年度より0.01ポイント向上させる。
- ★ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和7年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ★ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。
- ★ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を 90%以上にする。
- ★ 令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ★ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 88%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 年度末校内調査「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合 80%以上を継続させる。
- ★ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 年度末校内調査「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合 90%以上を継続させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ★ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ★ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 63%以上にする。(低学年は校内調査を活用)
- ★ 令和 6 年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合 90%以上を維持する。

【学びを支える教育環境の充実】

- ★ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ★ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90%以上にする。
- ★ 年度末の校内調査の「読書記録の目標（冊数）を意識しながら読み、昨年度より本を読む量は増えましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立本田小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>★ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 88%以上にする。（低学年は校内調査を活用）</p> <p>★ 年度末校内調査「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合 80%以上を継続させる。</p> <p>★ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。（低学年は校内調査を活用）</p> <p>★ 年度末校内調査「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合 90%以上を継続させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育の推進】</p> <p>児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートで「いじめられたことがある」と回答する児童の割合を前年度比で減少させる。 ・校内調査「安全に気をつけて生活している」の項目について、肯定的に答える児童の割合 80%以上を継続させる。 ・校内調査「ろうかや教室を走らずに生活している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする ・校舎内（運動場、講堂を除く、登下校時のがは含む）のけがで保健室に来室する児童 1 人あたりの回数を前年度比で減少させる。 ・各種避難訓練の事前指導、ふりかえりを各学級で徹底することで児童が課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する機会をもつ。 	

取組内容②【2、豊かな心の育成】

命を大切にし、仲間を尊重する心と態度を育てる教育活動を実践する。

指標

- ・校内調査「異学年交流の中でみんなの気持ちを考えて動いた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。
- ・校内調査「困っている友だちがいたら助けることができる」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（自由記述欄）

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立本田小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>★ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35% 以上にする。（低学年は校内調査を活用）</p> <p>★ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>★ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）や スポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 63% 以上にする。（低学年は校内調査を活用）</p> <p>★ 令和 6 年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合 90% 以上を維持する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【 4 、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が主体的・対話的で深い学びに取り組めるように、全教員が指導力向上に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の研究授業・研修会を年間 30 回以上行う。 ・自分の考えを可視化したり相手に伝えたりする活動を取り入れる。 ・考えが広がったり深まったりする学びについて、年 1 回研修会を行う。研修会後、そこで学んだことを子どもに話す時間を設定する。 	

<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】 外国語（英語）の勉強が好きな児童を育てるための英語活動を充実させる。</p>	
<p>指標 ・本田タイム等を活用して、外国語（英語）の活動を週20分以上実施する。</p>	
<p>取組内容③【4、誰一人取り残さない学力の向上】 体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動に、学校全体・各学年で取り組む。</p>	
<p>指標 ・体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動に、各学年で年3回以上取り組む。</p>	
<p>取組内容④【5、健やかな体の育成】 児童が運動（体を動かす遊びを含む）する機会を設定するとともに、体育の授業を充実させる。また、健康的な生活を送るため、目標を設定し、取り組める児童を育成する。</p>	
<p>指標 ・特別活動として、児童が中心となり、わくわくスポーツタイムを企画するなど、児童に運動の楽しさを味わわせる活動をする。このような体育的な活動を年3回以上実施する。 ・感染症予防のため「給食前に手を石鹼で洗う」項目の割合90%を維持する</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（自由記述欄）</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(様式 2)

大阪市立本田小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ★ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。 ★ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90% 以上にする。 ★ 年度末の校内調査の「読書記録の目標（冊数）を意識しながら読み、昨年度より本を読む量は増えましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70% 以上にする。			

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6、教育 DX の推進】 日常の学習の中で個別最適な学びや協働的な学びの実現に向け、1 人 1 台端末を活用する。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの可能性を引き出すために、デジタルドリル navima を週 2 回程度活用する。 ・1 人 1 台端末を文房具の一つとして活用できるようにするために、3 ~ 5 年生でタ イピングの練習を週に 1 回程度取り組む。 ・3 ~ 6 年生は、教科の学習で週 2 回程度活用する。 ・情報リテラシー教育を計画的に学期に 1 時間ずつ実施する。 ・会議や研修において、学期に 1 回以上ロイロノートの活用をし、校務の DX 化を図る ・全学年、心の天気を毎日活用する。 	

取組内容②【8、生涯学習の支援】

児童が本に触れる機会を保障するとともに、児童が読書に興味をもち、読書活動への意欲向上につながる取り組みを行う。

指標

- ・各学年、週に一度の図書の時間を確保する。(時間の確保)
- ・学校司書や図書ボランティアと連携を図り、低学年に読み聞かせを、週に一度以上行うようする。(自分の知らない世界との出会い)
- ・中央図書館との連携を図り、学習単元に関わる図書の貸出依頼を、全学年、年に一度以上行うようする。(目的のある読書)
- ・休み時間の図書開放を週に1回実施する。(機会の確保)
- ・読書記録を作り、子どもの読書の実態を把握している。(実態の把握)
- ・学級書庫の本を年に2回入れ替える。
- ・めざす子ども像に近づけるために、読書に関して自ら目標を設定し、目標に向かって遂行する機会を設ける。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（自由記述欄）

次年度への改善点